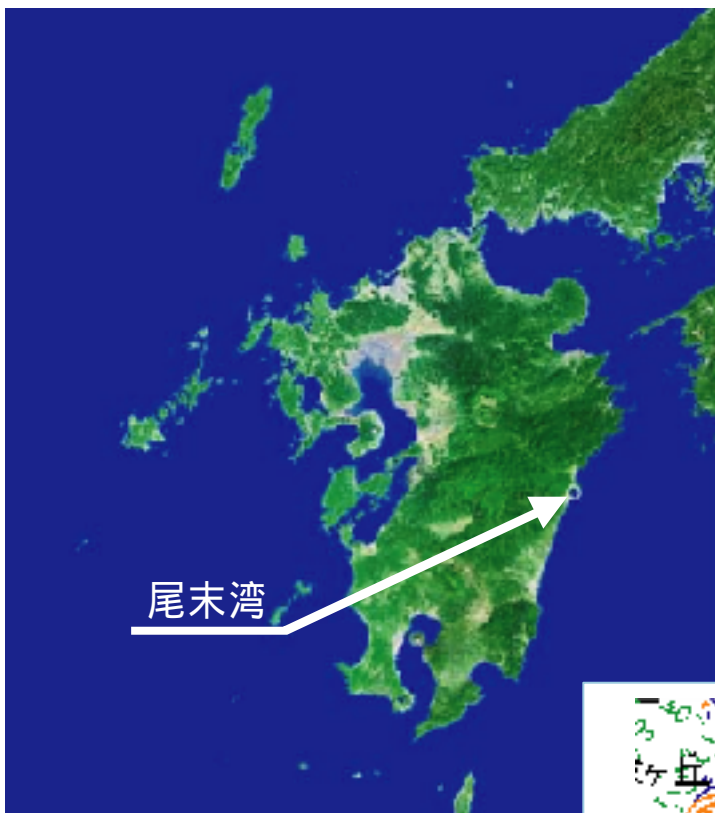


海域の概要

本湾は、宮崎県北部に存在する湾で、東部を日向灘に開いています。湾南部は細島港、湾北部は門川港となっています。湾内には乙島という無人島が存在します。



尾末湾

Specification

諸元

湾口幅：1 6 5 k m

面積：1 0.2 8 k m²

湾内最大水深：2 0 m

湾口最大水深：2 0 m

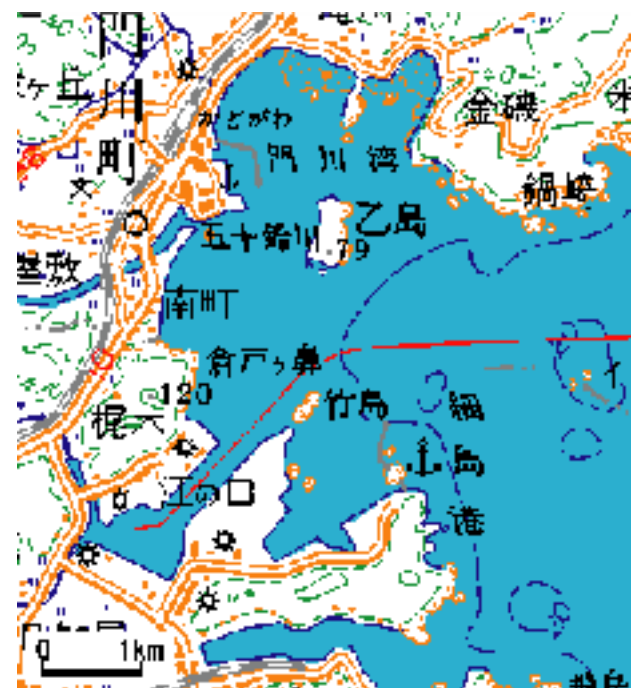
閉鎖度指標：1 94

備考：環境基準類型指定水域

Location

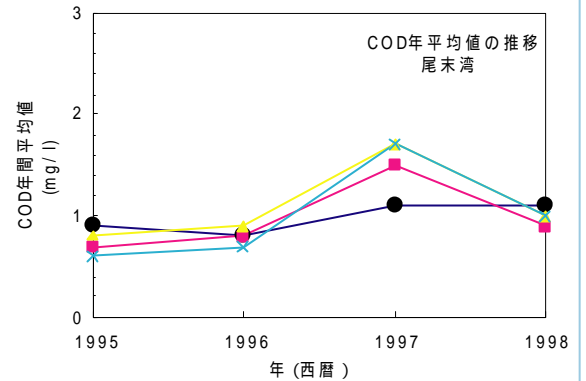
範囲または位置

宮崎県細島港余島防波堤、同防波堤先端から23度に引いた線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

湾口を日向灘に開いている湾で、沖合を黒潮が流れています。気候は太平洋岸気候区に属し、九州の中でも特に高温多雨な海域です。宮崎県は台風銀座と呼ばれるほど台風が多い地域でもありません。湾内には、五十鈴川、鳴子川などが流入していますが、水質は、一般的に良好でCOD 年平均値は、1mg/l 前後で推移しています。



自然

尾末湾は、リアス式海岸で湾内に浮かぶ乙島を含む湾口部は、日豊海岸国立公園に指定されています。湾内には幾つかの島があり、その中でも、湾口の沖合に浮かぶ枇榔島は、別名「美女ヶ島」とも呼ばれており、周囲 1.5 km の柱状節理の絶壁に囲まれた無人島で、国指定の天然記念物のカムリウミスズメの世界最大の繁殖地としても有名です。



美女ヶ島

また、湾内の乙島には、暖地性植物が群生し、尾鈴山石英斑岩と呼ばれる柱状節理の岩盤から成り、島の回りには大小7つの海触洞穴があります。中でも「茶屋の大門（別名 龍宮のぞき）」はもっとも大きな洞穴で、水をたたえ、入り口の高さは 14.4m、幅 8m、奥行 63m もあります。

文化歴史

尾末湾は天然の良港（細島港）であり、古くから東九州の海上交通の要衝として、また地域開発の中核として重要な役割を果たしてきました。明治時代には、四国・阪神方面との間に定期航路が開設され、オランダ人技師デレーケの設計による港湾整備が行われました。昭和 26 年には重要港湾として指定を受け、昭和 39 年に開港して以来各国の船舶が相次いで入港しています。



細島港

産業

門川町は、漁港町として知られ、水産加工は基幹産業となっており、アジ、タイ、ハマチ、ヒラメなどの養殖も盛んで県外へ出荷されています。

小魚と町土の 84% を占める森林で生産された原木しいたけ・山芋等をミックスして山の幸、海の幸たっぷりの「山海すり身」を町の特産品として販売されています。

門川湾を一望する遠見山半島は尾鈴山脈の北端をなし、シルト岩（白色の網粒砂岩）に恵まれ「登り窪・穴窪」を取り入れた「庵川焼」は好評で、地場工芸として大いに期待をされています。

背後の日向・延岡地区は化学工業地帯として化学食料品・繊維等の製造業を中心に発展し、細島港より貨物の出入がされています。